

# タイ人留学生のコード・スイッチングの使用実態 — 文法的観点に注目して —

スイリポーン イヤムボンサーイ

## 要 旨

現在、日本は多言語多文化社会になりつつあり、日本語学習者をはじめ、日本に滞在している外国人の数が、年々増加している。日本語や母語と接触しながら、二言語環境下に生活している彼らの言語運用を観察すると、周りの人とコミュニケーションを図る際、発話相手や場面などによって母語と日本語を巧みに切り替え、コード・スイッチング（以下、CS）を行っていることに気づく。そこで、本研究は彼らのこのような言語行動をより理解するために、タイ人留学生同士の電話会話を資料とし、タイ語から日本語への CS を文法的観点から分析し、使用実態を明らかにすることを目的とする。分析の結果、タイ語から日本語への CS における文法的単位について、CS はいろいろなところで起きていることが明らかになった。また、文法的なルールについて、CS ルールが存在していることが明らかになり、本研究では、6 つのルールが観察された。それらのルールには、本来の日本語やタイ語の構造に許されないものも見られた。

【キーワード】タイ人留学生、コード・スイッチング、タイ語、日本語、文法的観点、

## 1. 研究動機・背景

現在、日本は多言語多文化社会になりつつあり、日本語学習者をはじめ、日本に滞在している外国人の数が年々増加している。日本語や母語と接触しながら、二言語環境下に生活している彼らの言語運用を観察すると、周りの人とコミュニケーションを図る際、発話相手や場面などによって母語と日本語を巧みに切り替え、コード・スイッチング（以下、CS）を行っていることに気づく。

また、これまでの CS では、海外のバイリンガル・コミュニティを対象とした研究は殆どである。しかし、日本国内における研究や日本語学習者を対象とした研究がまだ少ない。そして、日本語と英語以外の言語を扱った研究が非常に少ない。

そこで、本研究では、日本語を学んだ経験のあるタイ人留学生を対象に、日本語とタイ語の CS の使用実態を明らかにすることが目的とする。第一ステップとして、タイ語から日本語への CS の使用実態を文法的観点に注目する。

## 2. 先行研究

今までの CS 研究は、海外のバイリンガル・コミュニティを対象として多く行われている。研究観点としては、主に、「アイデンティティ関係」、「機

能的観点」と「文法的観点」の3つが見られる。本研究では、文法的観点を分析対象とするため、「文法的観点」の先行研究のみを概観する。

まず、CS パターンに関しては、多くの研究で、CS を文中（INTRASENTENTIAL）と文間（INTERSENTENTIAL）の2類型に大別している（Poplack 1980, Nishimura 1995・1997, MaCSwan 2000 など）。文中の CS は文や節の境界内部で起こる CS を指し、文間の CS は文と文の間で起こる CS を指す。一方、CS をさらに細かく分類している先行研究も見られる。岡(1995)は、CS を付加語句、文間、文中という3つのパターンに分類している。岡では、付加語句は、付加疑問、感嘆詞、挿入語句を指し、殆ど統語的な制約なしにいろいろな位置に挿入できると述べている。また、名詞のような単独項目を文中と文間の CS 以外のものとして扱っている研究もある（Sankoff 1998, Bakus 1996, ナカミズ 2003 など）。ナカミズ(2003)によると、挿入型 CS とは A 言語の文法構造に影響を与えないような形で挿入される B 言語の単独項目のことを指す。また、ナカミズは挿入型 CS としては、名詞が最も多く見られるが、話し手が感情やその瞬間の主観的な印象を表す場合には形容詞と感嘆詞も見られると述べている（ナカミズ 2003）。このように、CS は

文のさまざまなところで行われており、CS パターンの分類は、研究者によって異なっているが、岡の「付加語句」やナカミズの「挿入型 CS」の切り替え位置を考慮すると、これらも文中 CS として扱えると考えられる。

また、これまでの CS 研究において、CS にさまざまな文法的制約が見られる。ここでは3つの制約について述べる。まず、ニューヨーク在中のペルトリコ人を対象とした Poplack et al.(1981)は語順の制約について提唱し、自由形態素制約(Free Morpheme Constraint)と等価的制約(Equivalence Constraint)に分けている。自由形態素制約では、ある言語の語彙がもう一方の言語に音韻的、形態素的に適応されていない限り、語彙と隣接の形態素の間で切り替えが起こらない。それに対し、等価的制約では、両言語の語順が一致しているところでのみ切り替えが起こり、それ以外のところでは起こりにくい。このように、両言語の語順が一致していない場合は借用が見られるが、両言語の語順が一致している場合は CS が見られると解釈できる。次に、Di Sciullo et al.(1986)は2つのカテゴリーに支配関係が存在する場合、CS が起こらないという支配・束縛アプローチ (Government - Binding Approach) について述べている。つまり、語彙と語彙のように支配関係がない場合、その間で CS が行えるが、数量詞や否定辞や助動詞といった機能的な役割を果たしているものとそれぞれの語彙の間に支配関係がある場合、その間では CS が起こらない。そして、マラッタ語と英語を対象とした Joshi(1985)はマトリックス・ランゲージ・アプローチ (Matrix Language Approach) を提唱し、CS が基盤となる言語 (Matrix Language) と埋め込まれる言語 (Embedded Language) の成分の組み合わせから成り立っていると述べている。Joshi の資料では、マラッタ語が基盤言語であり、マラッタ語の中に英語を埋め込んだ CS 文の例が観察されている。Joshi の考え方からすると、CS の文法構造は基盤言語の文法構造を維持する必要があると考えられる。このように、CS はさまざまな制約に関わっているが、それぞれの制約によって文法的なルールが形成されると考えられる。

### 3. 本研究の CS の定義

本研究では、CS を同じ会話や発話の中で2つ以

上の言語を切り替えることと定義する。文レベルの切り替えを行うものを文間 CS とし、単語レベルの切り替えを行うものを文中 CS とする。

## 4. 本研究の概要

### 4.1 研究目的

大学での日本語学習課程を終えたタイ語を母語とする留学生同士の電話会話資料を用い、彼らの会話にタイ語から日本語への CS が見られるか、見られるとしたら、それぞれの CS はどのように行われているか、どのような文法的なルールを持っているかを明らかにし、タイ語から日本語への CS における文法上の特徴を提示したい。

### 4.2 調査資料

タイ人女子留学生同士の電話会話 (30 組) をデータとして使用する。本研究では、言語切り替えに注目することが目的なので、身振り手振りなどの非言語行動を除くために、電話会話をデータとした。各組に、タイ語で自由に会話をするように教示し、会話時間は20分程度である。

### 4.3 対象者

対象者は、日本に滞在しているタイ人女子留学生で、全員、日本語能力試験 1~2 級取得者である。日本語学習期間は4~9年で、在日期间は1~6年7ヶ月である。

## 5. 分析の結果

### 5.1 文法的単位

本研究の資料では、タイ語から日本語への CS において、文中と文間 CS が見られた。文中 CS は、文中のいろいろな単位で起きていることが観察された。なお、CS の文法的単位は、CS が文の中においてどこで行われているかを明らかにすることを目的とするため、記述する際、文中 CS のみを分析の対象資料とする。(例文は稿末資料1を参照)

### 5.2 文法的ルール

本研究のデータから抽出された文法的なルールについて、6つのルールとして整理することができた。(例文は稿末資料2を参照)

- (1) 活用させた形の動詞を埋め込む CS
- (2) タイ語の否定辞+日本語の名詞・形容詞・動詞
- (3) 「名詞+スル」、「副詞+スル」、「助動詞の後」  
+語幹の部分のみ
- (4) トピック・コメント文の場合、トピックとコメ

ントの間でCS

(5) 数字の場合、数字と単位の間でCS

(6) 複文の場合、主節と従属節の間でCS

## 6. 考察

### 6.1 CSの文法構造

本研究では、語順の違ったSVO言語のタイ語とSOV言語の日本語の間でもCSが見られる。本研究の結果と先行研究の結果から、CSは両言語の語順に影響されていないことが明らかになった。

また、CS文はJoshiの提唱したMatrix language approach 通りになっており、CSの文法構造は基盤となる言語を維持しながら、他方の言語を埋め込むことが明らかになっている。本研究では、タイ語から日本語へのCSを分析対象としたため、基盤となるタイ語の文法構造を維持しながら、日本語が埋め込まれている例文が多く観察された。

### 6.2 CSの文法的ルール

文法的なルールについて、タイ語から日本語へのCSはタイ語のルールでもない、日本語のルールでもない独自の文法的ルールを持っていることがわかった。例えば、本来のタイ語なら、許されない「動詞の活用形で置き換えること」がCS文になると、許されている。また、本研究で観察されたCSルールは本研究独特のルールではなく、日本語と他のSVO言語（ここでは、中国語・英語・タイ語を指す）を対象とした先行研究でも同じルールが観察されている。例えば、「SVO言語の否定辞＋日本語の動詞の組み合わせ」について、本研究では、タイ語の否定辞＋日本語の動詞が観察された。Nishimura(1997)でも同じように、英語の否定辞＋日本語の動詞の例文が見られた。

## 7 今後の課題

本研究では、タイ語母語話者場面におけるタイ語から日本語へのCSを文法的観点に注目して、分

析を行った。しかし、タイ人留学生のCS使用実態を明らかにするために、タイ語から日本語へのCSのみならず、日本語からタイ語へのCSの文法的特徴も追求する必要があると考えられる。そのため、今後の課題として、日本語とタイ語へのCSの文法上の特徴を明らかにすることを試みたい。また、タイ語と日本語以外のCSを文法的観点から分析した先行研究の結果と照らし合わせて、CSの普遍的なルールを追求することを試みたい。

### 参考文献

- 岡秀夫(1995)「二言語使用者のコード・スイッチングに関する社会言語学的研究」『平成6年度～8年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書』, 122-123.
- 金美善(2003)「混じり合う言葉－在日コリアン一世の混用コードについて」『言語－特集移民コミュニティの言語』36, 大修館書店, 46-52.
- ナカミズ・エレン(2003)「コード切り替えを引き起すのは何か」『月刊言語－特集 移民コミュニティの言語』36, 大修館書店, 53-61.
- 服部圭子(2001)「接触場面における日本語非母語話者のコードスイッチング機能を中心に」『多文化社会と留学生交流』第5号, 大阪大学留学生センター, 39-58.
- Di Sciullo, A., Muysken, P., and Singh, R. (1986) Government and code-mixing, *Journal of Linguistic*, 22, 1-24.
- Gumperz, J. (1982) *Discourse strategies*, Cambridge University press.
- Joshi, A. (1985) Processing of sentences with intrasentential code-switching, *Natural Language Parsing*, Cambridge University Press, 190-205.
- MaCSwan, J. (2000) The architecture of the bilingual language faculty: evidence from intrasentential code-switching, *Bilingualism Language and Cognition*, 3, Cambridge University Press, 37-54.
- Nishimura, M. (1997) *Japanese / English code switching: syntax and pragmatics*, Peter Lang Publishing, Inc.
- Poplack, S. & Sankoff, D. (1981) A formal grammar of code-switching, *Papers in Linguistics: International Journal of Human communication*, 14, 1-45

## 稿末資料 1

### 文法的単位

[例 1：動詞]

T1: แปลว่าที่ T13 ชอบงานบริษัทมากกว่าคนอื่น

(つていうのは、T13 先輩は会社で働く方が好きでしょう。)

T13: คือที่ทำอะไรก็ได้ที่ก่อน 困ってる ไม่รู้จะทำอะไร

(私は何をやってもいいから、困ってる。何をしたらいいかわからない。)

[例 2：トピックとコメントでの CS]

T5: ตอนนี้ตาช้ำโรงพยาบาล ตอนนี้ก็มีแค่เรื่องราวการตรวจ

(今、お爺ちゃんは入院してる。最近、悪いことばかり起きてる。)

T6: เออ ๆ (うん)

T5: คนอื่น อัลツハイเมอร์でしょう。

(お爺ちゃんはアルツハイマーでしょう。)

## 稿末資料 2

### 文法的ルール

(1) 活用させた形の動詞を埋め込む CS

T14: แล้วเพื่อน T14 คุย 迷ってる แล้วเพื่อน ไปปรึกษาเพราะมัน 迷ってる ใจว่าแบบ

(私の友達は迷ってる。迷ってるから、相談しに行った。)

(2) タイ語の否定辞＋日本語の名詞・形容詞・動詞

T3: ยังไม่รู้เลย ยัง ไม่ 決まった จะที่

(まだわからない。まだ決まってない。)

(3) 「名詞＋スル」、「副詞＋スル」、「助動詞の後」＋語幹の部分のみ

T1: ไปดูยังมือถือ ไปดูที่ 新宿

(新宿へ携帯を見に行った?)

T3: ยัง ยัง (まだ。まだ。)

T1: อ่าว (そう?)

T3: ก็ ยุ่งๆ ยุ่งๆ อยู่นะเรื่องนี้

(まあ、ยุ่งๆ。私はこういうことに対してยุ่งๆしている。)

(4) トピック・コメント文の場合、トピックとコメントの間で CS

T5: ผลเลือด 脾臟 อะนะ เอาผลเลือดไปให้โรงพยาบาลมา โรงพยาบาลอ่านปุ๊บ ทำไม่ญี่ปุ่นมันสามารถออกผลได้จนทชี่วะ

(脾臓の血液検査結果なの。検査結果を Rama 病院に持って行ったら、Rama 病院の先生はそれを見て、「なぜ日本ではそんな結果が出せるの?」と言った。)

T7: อ้อ (うん)

T5: มีของไทย このような数字は出せない。(タイでは、このような数字が出せない。)